

日程第２．一般質問

○議長（五十嵐健一郎君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１３人ですが、議事の都合により、本日５人、１８日５人、１９日３人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き１人３０分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。〔１１番 笠原幸江君登壇〕

○１１番（笠原幸江君）

おはようございます。清政クラブ、笠原幸江です。

通告書に基づき、１回目の質問をさせていただきます。

１、旧姫川病院について。

病院は潰れないという神話が崩れた平成１９年６月４日、旧姫川病院が経営破綻してから１１年目に入ります。当時の経営陣に対し、一部出資債権者の皆さんが、５億円余りの債権金額を回収する手段として訴訟に踏み切りましたが、回収できませんでした。その間、平成２０年８月には４万８、８８０人ももの署名を集めています。急な閉院で多くの皆さんが精神的苦痛に憤り、そのダメージが大きかったと推察しています。

管財人である馬場弁護士による姫川病院破綻に至る経緯等の報告書（平成１９年１２月１８日）の中では、昭和５９年ごろ当時の市議会で建設のための特別委員会を設置、病院の誘致など議論されて最終的に医療生協とし、昭和６２年５月１日開院。当時の市議会議員らが中心となつての設立であったため、市役所ＯＢ、市議会議員が多数理事として参加。（歴代理事８７名中４０名が町・市議会議員あるいは市役所ＯＢ）と明記されています。また、さまざまな問題点も厳しく指摘された報告書となっています。当市も医療機器購入に対して多額な支援をしています。

旧姫川病院は、現在、廃墟となっていることから、今後、当市としての利活用も含めてどのような対応を考えているか伺います。

- (１) 内部は荒らされているが建築物としては使用可能と聞いている。これまで建物の利用について、庁内で協議された経緯はあるか。
- (２) 福祉施設として活用も考えたいと平成１９年の６月議会で答弁されていますが、現在もその気持ちに変わりはないかどうか。
- (３) 今後の取り扱いについて関係機関と連携し、前向きに協議する必要があると考えるがいか

続いて2、学校施設の老朽化対策と学区再編の必要性について。

当市の人口は、際限なく下降の一途をたどっており、大変厳しい状況と言わざるを得ません。0歳から5歳までの人口推移では、平成17年2,257人、平成30年1,514人で、743人減少しています。保育園、幼稚園、こども園の平成30年4月1日現在、園児数1,137人で定員の数は1,514人を下回っています。小学校、中学校にも影響が出ていて磯部中学校、今井小学校、上早川小学校、さらに市振小学校と浦本小学校が、本年3月に歴史に幕をおろしています。合併後、遠隔地から進んでいることが明らかなです。

学校の耐震化が終わっていますが、今後、施設の年次計画が進んでいくと存じますが、建てかえや改修など財政規模から見ても、喫緊に全体の施設の老朽化対策と保育園・学校の学区再編が必要になってきています。それらを踏まえ伺います。

- (1) 市立保育園で老朽化が進んでいる大和川保育園・西海保育園は建てかえの時期と思うが、どのようになっているか。
- (2) 大和川小学校は老朽化に伴い雨漏りがひどくなっている。保護者の方からは何とかしていただきたいとの声が上がっており、その対策と今後の見通しはどうか。
- (3) 今後、再編年次計画を作成するに当たり、当市の地域性と特色のある学校づくりの目玉となるよう保育園のあり方と、新しく小・中一体とした一貫教育で、特色のある教育環境づくりに臨んでいただきたいがいかがか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目と2点目につきましては、これまでも関係機関と連携し、現地調査や利活用の検討を行ってまいりましたが、多額な改修費用がかかることから、有効な活用が見込めない状況であります。

3点目につきましては、最近、土地所有者から相談を受けております。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますのでよろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

おはようございます。

笠原議員の2番目の質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、公共施設等総合管理指針に基づく各園の個別計画を今年度中に作成した上で、今後の対応を進めてまいります。

2 点目につきましては、体育館の雨漏り対策として現在、屋根の防水工事を防水工事を実施しており、7 月初めには窓枠防水工事等を発注する予定であります。

3 点目につきましては、一貫教育方針推進のために小・中連携は重要と捉えており、今後、計画を策定する中で位置づけてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○1 1 番（笠原幸江君）

2 回目の質問に入らせていただきます。

まず、1 点目の旧姫川病院についてであります。なぜ私が今回、旧姫川病院について質問させていただいたか。冒頭でも申しましたように設立当初から議会がかかわっていたこと。2 点目に、医療機関係で市民の税金で支援をしていたことであります。3 点ありまして、もう一点目は、実は姫川病院が閉院したときに組合債権者連絡協議会というものを立ち上げたのを皆さんご存じでしょうか。まずそこを確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

平成19年当時、そういう組織ができたということは承知をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○1 1 番（笠原幸江君）

この組合債権者連絡協議会というのは、被害者債権者の会とは別に、実は私もこの債権者連絡協議会の1名であったということでもあります。

被害に遭われた方たちの、何とか気持ちを酌んで、皆さんと一緒に共有したいということで、本日、議場にもおります高澤議員、それから前倉又議員、この3名で皆さんと一緒に悩みを聞いて上げようということで立ち上げた会であります。10月に立ち上げました。

私とその1人の一員でありましたことから、今回、姫川病院の旧姫川病院について質問をさせていただくことといたしました。

それでは、（1）これまで建物の利用について庁内で、先ほど市長が答弁されましたが、建設課の方たちも中に入っているいろいろ調査をしていると思うんですが、いかがですか。私は、中は使えるというふうにお聞きしてるんですが、実際どのような今状態になっているか聞かせていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

おはようございます。

お答えします。

これまでに庁内での検討の経緯でございますけれども、平成２３年のときに福祉施設への転換ができないかということで庁内で協議をしまして、実際に現地のほうにも確認いたしております。その後は、平成２５年に防犯の関係がございまして、調査もいたしております。当時の行ったときの写真とか画像を見ますと、非常に内部が荒らされておまして、ガラスの破損でありますとか、電気の空調の部分が乱れていたりとか、配線コードも引き抜かれたりだとか、非常に内部のほうは厳しい状況であったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○１１番（笠原幸江君）

それは平成２２年ですか、今現在どうなってます。今現在は、皆さんの中で、あの建物の中に入って調査したことはありますでしょうか。今現在の話です。近々の、近い話、前の話じゃなくて最近の話でいいんで、入られたことがありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

最近といいますか直近については、建物、申しわけございませんけれども、中のほうへは入ってはおけません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

市の関係課で何回か現地を調査しております。最近では、平成２８年と平成２９年であります。

平成２８年につきましては、私もその中へ入って、現地を調査をしたということであります。入ってみて相当、内部は大変な状況になっておると思っております。といいますのは、電気の配線関係が全部なくなっているといいますか盗難に遭って、ない状況であります。それから、建物全体も相当、何といいますか荒れているというような状況であります。

したがいまして、跡地を建物を再利用するということは、私の感覚的には非常に難しいなということなんですけれども、ただ、私らのほうにつきましては、あの建物は所有者ではないものですから、

そういった検討までには、いってないということであります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

大変な状況になっていることが、また明らかになってきました。所有者がいないということですが、確かに所有者はないということも、私も承知しております。

それでは、当時、合併する前に米田市長も理事で、姫川病院の理事をやられたことはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

合併前に理事を務めた経験はございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

19年の6月議会で福祉施設としての活用を当時、市長が野本議員の一般質問でお答えになって

十

おります。
当時とは何かしたいなという気持ちが伝わってくる言葉だとは思っておりますが、その後、11年目に入りました。その気持ちというのは、何とか福祉施設として利用したいという、その気持ちを、実はその年の19年の11月には、また残念をしております。医療施設としては、難しいということ、また市長が答弁されております。それは難しいんだと。だからしっかり検討しなくてはいけないんだという、その当時の思いが記述などに載っておりまして、それから随分たちましたので、その気持ちというのは、どうかしたいという気持ちは今も変わらないのかどうか、ここでちょっと確認したいんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々は、いつも言うておりますように市内のありとあらゆるものについては、やはり活性化について、またこのまちづくりの中で生かしていきたいという気持ちは変わらないわけでありまして、当然、自分たちの施設ではないにしても利用されてないものに対しては活用していきたい。その一環の中で姫川病院の跡地についても同じ考えでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

医療としての施設、医療施設としての施設というのは、今このような状態になっておれば医師不足、看護師不足、さまざまなところでは、それは大変難しい判断だと私もそれは同じであります。医療施設としては、もう不可能な場所じゃないかなと思っております。

それで、私は福祉施設として、あの施設をもう一度再生させる必要があるんじゃないかという私の考え方です。そのためにどうしたらいいかということ、少し未熟な頭ではございますけれども、各関係機関に行動してみました。何とかしたい。皆さんの思いを何とかしたい。お金を返してくださいということじゃありません。あの施設を再生するにはどうしたらいいかということ、歩いてみました。さまざまな人たちとお話する中で、市は一体あの建物をどうしたいのだという話に最終的にはなりまして、ではもう一度、市のほうにちょっと確認したいなということもありまして、今回の一般質問もしております。

本当に債権、組合債です。組合債を買われたというか、投資された方は、本当にこの報告書から見ると経営者に対しての思いというのが物すごく強くありまして、お金を一生懸命、病院のために何とか自分も老後のために自分の蓄えてたものを病院が存続してってくれるんならということで、組合債を買われた方がたくさんおります。その当時で、今、計算改めてしてみました。12億からの組合債が姫川病院のほうに投入されてて、それが戻ってきてない。姫川病院さんそのものは、そのときはとても金利がよかったんです。それも調べさせてもらったら、10年物で、当時の市内の金融機関は0.25だったんですけれども、金利が10年で2%、5年物で1.75、そういうふうにして、この広告を出されて集められた経緯もあります。10年物で2%、5年物で1.75、3年物で1.25、市内の銀行の金利は、3年物で、ごめんなさい、訂正です。3年物で0.25%だった時期がありまして、多くの組合債を姫川病院の人たち、経営者が集めたという記述も載っております。そんなことで、私も何とか皆さんの思いを届けて、姫川病院の再生に何とかしたいなというのがありまして動きました。

ところで、市長も先ほど申しました、何とかしたいんだというお気持ちも少し見えましたので、実は、いかがでしょう、いろんな関係機関と、もう一度話し合うというチャンスをつくってみてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

何とかしたいという気持ちはあります。実際、建物所有者がいないという状況でありますので、どういうふうにしてそれができるか。その方策が見えないうちは、関係の皆さんと話し合っても、それはあれだと思います。法律的にもその方策がきちんとまず確立しなきゃならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

姫川病院の経営陣は誰もおりません。しからば、じゃあどこテーブルに私のってくださいというの銀行です。銀行さんともう一度お話し合いをしてみたらいかがでしょうかということです。当時の銀行は、富山総合第一、富山第一銀行です。こちらの人たちもテーブルの上に上げていただけませんかということ。それから、当時、建設するために建物の権利者というものがありまして、その人たちは、市内の業者であります。その業者さんも一緒に同じテーブルの上に上げてみたらいかがでしょうかということです。まず、富山第一銀行さんと一緒に同じテーブル、後は地権者さん、要するにテーブルの上に皆さんそろって、今後、建物は生かされるのか、生かされないのか、それを一緒にテーブル、てんでやるとそれぞれの思いというものが入ってきますので、テーブルの上に上げていただきたいと思うんですが、いかがです。そういう気持ちはできませんか。ぜひしていただきたいんで、いい話になっていくと思っております。

私も実は、富山第一銀行にも行きました。各市内の業者さんも行きました。本社がある上越にもありますその業者さんにも私お話を聞いております。ぜひいい話なので、ぜひのっていただきたいんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに笠原議員のご指摘のような形というのは、笠原議員のお考えであるのかもしれません。

しかし、我々といましては、あの施設をどのように使うのか、どうすれば利用できるのか、活用できるのかというのが、まず先だと思っております。それにはやはりこのいろいろ我々がいろいろ想定するものに対しましては、建物が大き過ぎる部分もあったり、また、その中でそれに対してどのぐらいの整備に金がかかるのか、確かは躯体は非常にしっかりしたものでありますので、新しいほうの施設については、活用ができると捉えておるわけでございますので、そういったところがまだ具体的にない中で、そういった皆様方とお会いしても、市が何かやるのか、やれよという形で捉えられても具体的なものがない中では説明ができないし、前へ進まない状況でございます。そういったところをやはり我々といましては探ってまいりました。

しかし、今言ったような形でなかなかいい名案というのはない状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

これ要望です。私の要望になるかもしれません。

組合債権債を購入された方たちは、もう考えるのも嫌だ、聞くのも嫌だという声も市民の方から聞いております。思い出すのも嫌だ。こういう人たちの行き場所というのはなかなか、ただ苦悩だ

けですね。反省というよりも何とかしたいという気持ちのほうが強かった方が多くの犠牲になっております。というのは、途中で債権を、ぎりぎりのところで債権を解約した方もいらっしゃいます。これは報告書の中できちっと載ってます。それでショートしたということまで載っております。

でも何も知らない純粋な気持ちの人たち、全てに本当に素直に純粋に組合債券を購入された方たちというのは、本当にひどい目に遭っております。私の知ってる方で、最高で6,000万です。その思いというのは、とても大きいです。

私はその人たちが、もし納得していただけたらと思うのは、福祉施設です。これからその人たちもお世話になります。社会福祉法人格の分室として、例えば今持ってる福祉施設の分室として、あそこを第2にするとか、あるいはこれから建てかえが始まってくるような福祉施設のものを一端そこに移す。移して、1分室、2分室というふうにして分けていただければ利用が可能ではないかと。新しく建てかえるよりも今の姫川病院をしっかりと中を内装、リニューアルすれば使えるという、それはたしか11年もなれば荒れて荒れて荒れて草ぼうぼうで、かえってあそこにあるホテルの皆さんにご迷惑、観光客にもご迷惑、あの建物一体何なんだろうということになってしまいますので、私は福祉施設として分室の扱いでやれば新しく申請も要りません、認可を必要として動かせるという話も聞いておりますので、ぜひ国の制度を利用して、国土交通省になるのか、木村副市長がいらっしゃった元国土交通省の対応になるのか、厚生労働省の対応になるのか、それは私ちょっと専門的でわかりませんが、しっかりとそこを研究してもらいたいです。いつまでもやれません、お金がかかりますと言ってるのではなくて、何とかせねばいかないよというところへ持ってっていただきたいんですけど、そうすれば今、組合債で12億のお金を出された皆さん、市がそこまで考えてくれるんなら、自分たちももし本当に認知症になられた方もいらっしゃいます。そういう人たちが施設に入れば、最後はハッピーになれるんじゃないでしょうか。いかがでしょうか、どなたか職員の中で考えた方いらっしゃいますか。あつたらずひ市長よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に債権者の皆様方にとりましては、今ご指摘のとおり本当につらいものがあり、非常に苦しんでおられることは承知であります。

しかし、それと姫川病院の建物の利活用、その同じに捉えていくというのは、ちょっと我々といったしましてもなかなか難しいところがございますし、また、福祉施設と一口に申されても、これについてもやはり市民や、また該当者にも影響が出てくる部分でございますので、その辺は今、高齢化社会においてどうしていけばいいかというのはやはりしっかりと捉えていかなくてはいけないと思っておりますので、そういったところを考えながら進めていきたいと思っております。そのようなことで建物を即福祉施設イコールというのは、なかなか行かない部分も私ありますので、それが市が主体になってやれるかどうかというところはしっかりと捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

公設民営という方法もあります。いろんな方法があります。じゃあ1回目の質問で、もう一度お聞きしますが、28年、29年でもう一回現場に入られたというんですけど、30年度は入る予定はありますか。調べられる計画というのは持ってますか。それをまず聞かせてください。建物の内部に入って、じゃあ、後の周りの草とかそういうのはどうなんですか。そういうのも計画の中に皆さんテーブルの上で上がって、庁内で検討しているのかどうか。それもまず聞かせていただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

平成28年、29年と今現地調査をしました。現地調査に行った職員も退職したりしましてメンバーがかわりますので、そういった点を踏まえて今年度どうするか。例えば平成28年ですと10月か11月だったということでもありますので、その辺についても今後検討させてもらいたいと思っております。

ただ、建物を何とかしたいという気持ちはあるんですが、何とかできるのが、今の段階では本当に何とかできるのは土地所有者だと思っております。

したがって、先ほど市長が答弁しましたとおり土地所有者から相談があって、今その中で土地所有者が、じゃあ法的に何ができるかというのを一緒になって勉強してるというのが実態であります。まだ途中段階ですので、それについては今後もっと勉強したいと思ってます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

副市長、土地使用者と申しましたでしょ、今。土地所有者ということは、地権者の皆さんですよ。地権者の皆さんで一番土地を広く持っている方が、福祉施設にしてくれと、何とかならんかねという話を、私、直接3回ぐらいお会いしてるんです。一番土地を持っていらっしゃる方が、あの建物を何とかできるという権利があるという話を、これは法律的に定かでないのでこの場所で言うのも差し控えるとまずいのであれですけど。その方も市に一生懸命言ってるというんですけども、じゃあそういうのであれば、じゃあもう一度土地の所有者、地権者さんです、その方たちと同じテーブルに上がって一緒に内部を見ていただいて、中の現状も把握してもらおうという方法もあります。何とかしたいという気持ちが皆さんの中で起きていただければできるはずなんですよ。だめだったらどうしますか、だめだったらだめだったと。やってみたけどだめだったと。しかれば、どうしても結果が出て、あれをそのままにしておく。いずれはあの建物はどうなる方向で行くんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

あのままですと、今のままですと建物の所有者がいまないので、建物の所有者はいまないので、あのままの状況が続くということでもあります。ただ、それを何とかできるのは、土地所有者のみが何とかできる方策があるんじゃないかということでもあります、法的には。

したがいまして、その辺を土地所有者と一緒に4月に懇談会をしました。そういったことで、じゃあ土地所有者として法律的にどういうことができるかを一緒になって研究して、勉強していこうということで、市も一緒になって勉強しているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

これで1問目の質問を閉じたいと思うんですけども、市長、これ勉強、勉強、勉強、勉強、勉強、研究、研究、検討、検討と言って、あの建物、何年なったら壊すのは誰が今度、壊すのは誰の責任で壊すもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

福祉にしろというだけで、要望だけで行政は動き得るわけではございません。今言ったように一番の権利者は今、地権者がおられるわけでございますので、地権者がどのようにしていくか、そこをやはりまた相談する中でどんな考えになっておるのか、そしてどういう形ならいいのか、我々も言われたから即そういったような形できるわけではございません。そういったところをこれからの中で詰めていかなくてはいけないと思っておりますし、非常にハードルが高いものでございます。市がやればいいじゃないのと簡単に申されますが、そんなもんじゃないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

あのね、市でやってくださいというふうに聞こえるのかもしれませんが、要するにテーブルの上に上がってください。本当にテーブルの上に地権者も、富山銀行さんも、それから今、建設当時に建物債権を投入された方たちもおります。その人たちとテーブルの上に上がっていただきたい。これ要望しときます。

次に、2つ目の質問に入ります。

学校施設の老朽化対策と学区編成の必要性についてであります。実はこれも私、平成30年の

3月の定例会の一般質問で、公共施設の見直しについて質問させていただいた折に総合管理指針に示されている施設カルテ、いわゆる個別計画が既にでき上がっている。8つのうちの学校施設関係については取り組んでいるとお聞きしました。それを踏まえて、今これから質問させていただきます。

1番目の市立保育園の大和川保育園、西海保育園、これの建てかえの時期とかそういうのはいかがでしょうか。計画の中に入っておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

保育施設につきましては、現在、個別計画を本年度中に策定しようという考えでおります。そういったことで、その計画ができてから順次改築等の計画に入りたいと思っておりますが、現在ご指摘のありました大和川、それから西海については、老朽化が相当進んでいる状況というふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

それから、2番目の大和川小学校の老朽化の雨漏りなんですけど、これは体育館とか窓枠とか、やられておる。これ今後かえてくんだということをお聞きしました。中の構造的な調査というのは、もう終わってるもんなんですか。あそこは海岸線で、とても塩害といいますか、ああいうのがひどいんですけれども、調査的には終わってるもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

雨漏りの修繕、今現在対応中でございますが、外壁が一部崩落をしてる箇所がございます。それで緊急の修繕を行っておりますが、そのほかにもちょっと外壁の危険箇所がありそうだということで、現在、調査を行っております。

また、その部分の対応につきましては、現在6月の補正予算のほうで一部計上させていただいて、早急に修繕の対応をしまいたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

構造的な調査をして、その後で大和川小学校も結構新しいといえば新しいんですけど、塩害、海のそばなので老朽化というよりも傷みが激しいのは見てのとおりだと思うんですが、今後、専門的な調査といいますか、どういうふうに、基礎だとかそういう傷みのぐあいを市の職員だけで間に合うのか、専門的に入れなきゃいけないのか、そのところはどうなってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

今、特に外壁のタイルの部分につきましては、専門の業者さんと調査に入りたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

外壁だけですか。全体的にはやらないんでしょうかね。タイルのとこだけ、要するに外壁だけやるんですか。全体的なものは、一緒に調査というのはしっかりやらないといけないと私思うんですけど、それは計画には入ってないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

緊急度が高いということで外壁の調査を優先してやらせていただきますけども、全体の調査は、今後、大規模改修して使える校舎か、そうでないのかという判定をする必要があるというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

早い時期に全体の調査を進めていただきたいということを要望しておきますが、そういう学校が今後、大和川小学校以外でもあるものなのかどうか、それはどうなって、個別でもうデータが出てというお話をお聞きしてますので、何カ所ぐらいあるもんなんですか。何校ぐらいと言ったほうがいいのか、何校ぐらいあるのか。何園ぐらいあるのか、何校ぐらいあるのか聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

個別計画のほうでは、特に中学校でございしますが、能生中学校、それからその次に青海中学校の大規模改修が必要というふうに計上しております。小学校については、今のところそういった計画はございません。また、保育園については、今年度の計画で策定をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

3番目の今後の再編年次計画、これについて質問させていただきます。

この再編年次計画というのは、いつごろから始めるんでしょうかね。まだ全く始めてないのか、始めてるのか、まずそこから確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

再編年次計画ということでございますが、個別計画の中ではそういった部分が入ってきておりませんけれども、個々に大規模な改修、あるいは改築が必要な校舎については、個別に計画、別の計画を立てて進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

いつごろから始めるんですかとお聞きしているんですけど、まだ全くやってないということで理解してよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

能生中学校、青海中学校の部分につきましては、そういった計画がございます。それから、今ご指摘いただきました大和川小学校につきましては、これからきちっと調査をする中で早急に計画を立てたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

+

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

再編計画が、私これから必要になってくると思っております。冒頭でも申しました保育園の数も少なくなりました。園児数も少なくなり、それから小学校も児童数がどんどん減っております。毎年毎年減ってきております。

それで、実は小学校の適正化規模、要するに適正規模・適正配置というのが出ておりますが、この小学校の適正規模というのは、大体何学級を適正規模というのか、各学校でどれぐらいの人数が一番適してる子供たちの環境なのか聞かせていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

一般的な適正規模数値については、今資料ございませんが、糸魚川市では今非常に大きな学校と単学級の学校、その差が大きい状態であります。複数学級あったほうがいいという考えもありますし、また、単学級で小ぢんまりした中で温かい学校をつくるという考えもありますので、また地域、子供、保護者の考えによって違うと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

小学校と中学校の適正な配置というのは、文科省が出されてるものによると大体12学級から18学級が一番理想的な規模だということなんですが、当市の現状を見ますと6年生までで2学級ずつ確保されてる学校というのは何校ありますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

現在4校、すみません、正確でなくて申しわけありません、4校は2学級以上、学年あると思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

そうなんですよね。理想的な適正配置というのは、市内においては4校、後は1クラスずつ、あるいは複式学級になってるのが現状だと思っております。

それで今後、再編計画、年次計画をやるかやらないか、まず確認先ほどしたんですが、ちょっと

わからないんですけど、いつごろから取り組んでいかれますでしょう。私ぜひ進めていったほうが、今後の児童減、人口減、それらに伴って、今から着手していかないと間に合わないんじゃないかなと思ってんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

お答えいたします。

学区の再編ということでございますが、まず子供の教育の環境が最優先だというふうに思っています。それから改築、それから移築などの場合は、やはり地元の皆さんとよく協議した上でないと、それがなかなか進めることはできないというふうに考えておりますので、今すぐにそういった計画を立てられるかという、そうでない状況だというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

さまざまなデータを見て、それから出生数、園児数、当然、出生数から園児数、児童数がどんどん影響してきております。統計資料29年度のを見ても複式学級のほうがふえてて、それからその地域でなかなかそのそばまで行くに距離が遠くて大変だということも出てきております。実際に市振小学校、浦本小学校が統合されて、長い歴史に幕をおろしておりますので、ぜひ今後、まだやらないというのはちょっと私、遅いのじゃないかなと思うんですが、老朽化した建物を建てかえるときとか、あるいは保育園を建てかえるときに全体のバランスだけじゃなくて糸魚川市に一番合った、今までになかったような一貫、一体とした小学校、中学校であったり、保、幼、小、中だったり、全体を見通した中の計画を立てていただきたいと切に願う1人であります。だんだん、バス通学でもいいですけども、スクールバスなどを出してもいいのではないかなと思っておりますので、そのとこの考え方を教育委員会としては、どのようにお持ちになってるか聞かせていただきたいんですけどいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

子供の数が少なくなってくるということと施設が老朽化しているということは、笠原議員ご指摘のとおりでございます。

ただ、数だけでこれからの計画を立てることはできませんし、地域の方々の声、またこれから保護者になられる方の声を十分にお聞きした上で協議をしっかりと行った上で計画を立ててまいりたいと思っております。その計画が、市民の方々に理解されるものとなるように教育委員会としても対

応してまいりたいと思いますし、決定した後についての手法、今ほどスクールバス等のお話もありましたが、そういうものについては十分な話を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

第2次総合計画、29年度の改定されてますが、その中に基本方針で充実した教育環境と安全性を確保するために施設の適正管理を進めるとあります。また、よりよい教育環境のために学校の適正配置を方針を検討し、計画中の改修施設・設備の更新により安全・安心で快適な教育環境の整備を進めるとうたってあります。

ただ、うたうだけではなく、もう進めなくては、早目に進めなくてはいけないんですが、まだこれからだということでもとても残念なんですけど、実は上越市では、新聞日報さんなんですけども、一般質問で教育長がその事情を踏まえて、これから説明をしていかなければいけないという話を、大分厳しい状況なんだなというふうにして思っておりますが、当市もやはり今からやらないと間に合わないんですけど、市長いかがでしょうか。しっかりと建てかえとか、あるいはリニューアルしてもいいんですが、糸魚川市、ここへ来たら糸魚川で教育受けたらいいよねと人が入ってくるような、そういう学校の施設になるような組み立て方をしていただきたいんですけども、いかがでしょうか。もう一度聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに施設から入っていく、そういった再編計画もあるのかもしれませんが、まずはやはり糸魚川で行える教育の充実、やはりこの自然や我々が糸魚川市のよさをどのように教育の中で生かしていくかというところをもうちょっとしっかりしなくてはいけないだろうと思っております。そういう中で、この数の関係の中で対応してる部分があるのかなと思っておりますが、数ありきではないと私は思っておりますので、そういったところを力入れていきたいということで今、教育委員会とも協議をいたしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

笠原議員。

○11番（笠原幸江君）

ぜひ力を入れて、糸魚川市の子供たち、新しい形の学校がもし生まれるのであれば、地域の皆さんもご理解していただけたと思います。いろんな方法がありますので、期待しておりますので、私もそれについては推進していきたいと思っておりますので、ぜひ今から、今から遅いようですがやってください。よろしくお願いします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を１１時０５分といたします。

〈午前１０時５３分 休憩〉

〈午前１１時０５分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、滝川正義

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

滝川議員。〔６番 滝川正義君登壇〕

○６番（滝川正義君）

創生クラブの滝川でございます。

６月議会の一般質問、大きな項目３点について質問させていただきます。

まず１点目、経済政策についてでございます。特に糸魚川市の地域経済についてでございます。

毎年３月、県から市町村民経済計算が発表されております。ことしも平成２７年度のものが発表されました。それによりますと国のＧＤＰ、いわゆる国内総生産に当たります市町村内総生産、これでは糸魚川市は全３０市町村の中で１１位です。

ところが、１人当たり市町村民所得はといいますと１６位と順位を下げてしまいます。例えば総生産額では、糸魚川市より下位であった胎内市、小千谷市、妙高市、見附市が１人当たり市町村民所得では糸魚川市を上回る結果となっています。

そこで、糸魚川市の市内総生産の内訳を見てみますと、第１次産業が１８位、第２次産業が１０位、そして第３次産業が１３位、このように２次産業と３次産業が健闘しておりますけれども、農業などの第１産業が振るわないものとなっております。このような糸魚川市の地域経済の姿についてどのようにお考えか、まず伺います。

次に、国では地域経済を活性化しようと昨年７月、地域未来投資促進法という新たな法律を施行いたしました。これは地域の特性を生かした成長性の高い新たな事業への取り組み、地域未来投資、これを実施する企業等を国と都道府県、そして市町村が一体となって支援するものです。この事業スキームは、国の基本方針に基づき、市町村または都道府県が基本計画を策定し、国が同意するものです。

新潟県内では、１７の市町村が計画を策定しております。中には、粟島浦村のように自然体験、民宿等の観光資源を生かした事業者の取り組みを支援するものもあります。糸魚川市は、この個々の市町村が策定する基本計画は今のところつくってはおりませんが、県内全市町村を対象にいたし

十